

# 中小企業と技術の出会いの場 TIRIクロスミーティング2016開催

6月8日(水)～10日(金)に、都産技研本部において「中小企業と技術の出会いの場 TIRIクロスミーティング2016」を開催しました。3日間で延べ700名の参加があり、都産技研や連携機関、共同研究企業による、研究成果や技術動向などの発表や意見交換を行いました。

## 今後成長が期待される分野を中心に、113テーマを発表

これまで、都産技研の技術シーズや研究成果を発表してきた「研究成果発表会」を、今年度より「TIRIクロスミーティング」に名称を変更し、活発な議論を通して中小企業と技術の出会いの場として活用していただく会へと発展して開催しました。

成果発表では、本年度からスタートした第三期中期計画で重点研究分野として位置付けた「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4分野に加え、「ロ

ボット産業活性化事業」、「先端ものづくり」、「品質向上」、「スポーツ義足」などの幅広い分野で113テーマの発表を行いました。

また、各分野の有識者による特別講演も開催するなど、中小企業の方々が技術や製品開発をする際に役立てていただけるプログラムも開催しました。本部の設備や施設を紹介する見学会も開催し、見学会参加者からは、技術支援を見据えた多くの質問が寄せられました。

### 6月8日(水)

#### 地方独立行政法人化10周年プログラム

都産技研は、平成18年に全国の公設試験研究機関に先駆けて地方独立行政法人化し、10周年を迎えました。これを記念して、(特非)産学連携推進機構 理事長 妹尾 堅一郎氏によるビジネスモデルに関する講演と、(株)メディカロイド 常務取締役 田中 博文氏による医療用ロボットに関する講演を行いました。講演後には、10周年記念式典を開催して奥村理事長が挨拶し、東京商工会議所 常務理事 西尾 昇治氏より来賓祝辞をいただきました。その後に行った10周年記念交流会には、



中小企業のビジネスモデルの必要性を語る妹尾氏



10周年記念式典で挨拶する奥村理事長

ご支援いただいている連携機関やTIRIクロスミーティング来場者、都産技研の職員などが参加し、交流を深めました。

### 6月9日(木)

#### 特別講演 ロボット化社会に向けて学ぶべきこと

大阪大学教授/ATR石黒浩特別研究所客員所長 石黒 浩氏による特別講演では、ロボット技術の変遷や、誰もが自然にロボットと関わる事ができる「ロボット化社会」の実現に向けた、「人間らしいロボット」の開発に必要なインタラクション技術の概要が紹介されました。

ロボット技術の研究開発は、心や感情も含めた人間そのものを理解することであると、工学だけではなく、脳科学や認知科学的なアプローチが重要であると解説されました。



ご自身を模して作られたアンドロイドを題材に解説



ご自身のアンドロイドによる講演の状況を紹介

#### 成果発表 ロボット産業活性化事業 安全・安心に寄与するロボットの研究開発

在宅介護者に安心感を与え、家族や介護支援者の負担軽減に寄与する「在宅見守りロボット」をはじめ、都産技研が研究開発に携わったさまざまなロボット技術を紹介しました。

また、平成28年度公募型共同研究開発事業の説明会も実施しました。ロボット産業への参入を目指す多くの中小企業の方々が参加され、活発な質疑応答が交わされました。



ロボットが求められる社会背景や課題にまで踏み込んだ発表



ロボット産業活性化事業セッションでは14の研究成果を発表

### 6月9日(木)

#### 成果発表 環境・エネルギー、機能性材料分野 都産技研の幅広いシーズを発表

環境・エネルギー分野では、「めっき」や「太陽電池」、放射性物質の既存捕集材の代替にバイオマス資源を用い、放射性廃棄物の減容化に資する「バナナ繊維のセシウムイオンおよびストロンチウムイオン捕集能」などのテーマで成果を発表しました。機能性材料分野では、「炭素材料」や「金属ナノ粒子」等のテーマで発表し、充実した内容の成果発表となりました。

#### 特別講演



技術供与や生産委託という海外展開戦略の有効性を説明する、(株)日本政策金融公庫 総合研究所 丹下 英明氏

#### MTEPセミナー



海外各国における医療機器規制について、MTEP 専門相談員が解説

### 6月10日(金)

#### 特別講演



CFRPの量産加工技術について自社技術を軸に解説する、三菱レイヨン(株) 小川 繁樹氏

#### 特別講演



ナノ・モールディング・テクノロジー(NMT)の国際標準化への取り組みを紹介する、大成プラス(株) 会長 成富 正徳氏

#### 成果発表 スポーツ義足 スポーツ義足に先端ものづくり技術を応用

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で注目が集まるスポーツ義足の研究開発について、都産技研と連携機関が研究成果を発表しました。AMを用いた走行用義足の設計製造技術を研究開発する東京大学のプロジェクト「MIAMI」では、城東支所や3Dものづくりセクターが3DスキャナとCTスキャナによる形状測定と力学的要件の調査を担当していることが紹介されました。

#### 特別講演 成果発表 生活技術・ヘルスケア あいまいな“心”を可視化し、ユーザービリティを追求

パナソニック(株)プロダクト解析センター ユーザビリティソリューション部係長 立田 美佳氏による特別講演では、「モノづくりへの人間工学・感性工学の活用」と題して、ユーザーの「使いやすさ」や「心地よさ」を解析し可視化、定量化を行う研究が紹介されました。感覚を可視化・定量化し、ユーザー評価と統合する手法に、参加者が多くの関心を寄せました。



研究で大事なことはユーザーへのヒアリングであると説明する立田氏

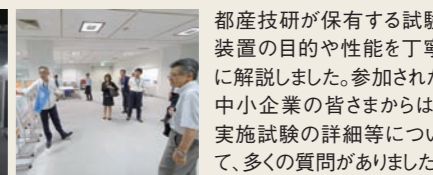


生活環境やヘルスケアに関して、人間工学に基づいた複数の研究成果を発表

## 見学会レポート

### 利用を見据えた見学会で活発な情報交換

9日・10日の2日間、都産技研本部の設備や取り組みをご案内する見学会を実施しました。中でも、今年4月に全面オープンした「東京ロボット産業支援プラザ」の見学には多くの方が参加されました。「傾斜路走行性試験装置」、「複合環境振動試験機」、「EMC試験室」等の新たに導入した設備の紹介では、ロボットの安全性評価に関係した質問が数多く寄せられました。



都産技研が保有する試験装置の目的や性能を丁寧に解説しました。参加された中小企業の皆さまからは、実施試験の詳細等について、多くの質問がありました